

先進校に学ぶキャリア教育の実践2

“学びの志”を育てることを目指して 地域プロデュース体験を導入

— 岡山・県立 倉敷南高校 —

グローバル化を見据えて英語教育や国際交流に注力する学校が増え、高校生の意識も変化してきています。一方で、足元の“わが町”を自分たちでより良くしていこうという気概は、高校生に育っているのでしょうか。

Think globally, act locally—そんな精神を育てることで生徒の力を伸ばそうと、倉敷南高校が始めた取り組みを紹介します。

取材・文／藤崎雅子

実践のKeyword

- 🔍 課題解決型プロジェクト学習
- 🔍 地域連携
- 🔍 フィールドワーク
- 🔍 ポスターセッション
- 🔍 学問分野研究
- 🔍 言語活動
- 🔍 ディベート
- 🔍 キャリア教育と進路指導の接続

授業改善やキャリア教育に積極的な進学校

江戸時代、物資輸送の集積地として栄えた倉敷の町は、現代も塗屋造りの町家や白壁土蔵造りが並び観光客でにぎわっている。そんな歴史ある美観地区にほど近い岡山県立倉敷南高校は、進学重視型の単位制普通科高校だ。

同校はこれまでスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールをはじめとする文科省や県の事業に指定され、授業改善に取り組んできた。キャリア教育においては07年度に文科省の研究指定校となったのを機に、校内にキャリア教育支援室を組織しキャリア教育を本格導入した。

その中核を担うのが2年次の必修の学校設定科目「キャリアI」だ。生徒がクラスの枠を超えて法律や教育、工学など10の学問分野に分かれ、大学教員の講義や職場訪問、グループ研究などを実施。それぞれが興味・関心のある各分野の理解を深めるとともに、将来の職業まで見通した進路選択に役立てている。

「本物からの学び」を普通科でも

そんな同校に、昨年度、山下陽子先生が校長として着任。まじめで前向きな生徒が多く、学校行事にも熱心。しっかりした指導体制のもと、生徒も教師も落ち着いたある日々を送っているという第一印象

を受ける。しかし常に「現状維持は衰退」。さらに生徒たちのポテンシャルを引き出す新たな仕掛けの必要性も感じていた。

「例えば農業科なら、誕生から世話をしてきた仔牛が怪我をして殺処分されたり、二百日で母牛から離されて肥育農家に売られたりする。日常が他の『生命をいただく』ことで成り立つという事実は、多くのことを考えさせ、そこで生徒はぐんと伸びます。普通科としての『本物からの学び』ができないか、と抱きました(山下校長)」

もう一つ山下校長が気になったのは、地域との隔たりだ。江戸時代に矢張りだった倉敷は、有力な町人(町衆)による市政運営で発展した歴史をもつ。現在も商工会議所を中心とした現代の「町衆連」が、文化や自治に重要な役割を担っている。21世紀型教育のキーワードの一つにもあがる「本物からの学び」だが、「まさに生徒の学ぶべき本物がそこにはある」と山下校長。

しかし、アンケートによると、「倉敷の町への関心」という項目で「ある」と答えた生徒は僅か2割弱である。全国区の観光地倉敷で、多彩な産業モデルや行事、支援者がありながら生かし切れていない現状も垣間見える。逆に、市内の専門高校では地域と共にイベントの盛り上げや特産品アドバイザーなどの取り組みをしており、地域から「専門高校に比べ、普通科高校は何をしているのか見えにくい」との声も聞かせる。

「普通科である以上、模試や補習等の時間的制約や進学保障の担保という課題もあり、できることは限られます。また、どう



School Data

普通科・単位制／1974年創立
 ／生徒数 913人(男子399人・女子514人)
 進路状況(2012年度実績) 大学88.1%
 ・短大4.2%・専修・各種学校2.6%・就職0.3%・その他4.8%
 岡山県倉敷市吉岡330
 TEL 086-423-0600
 URL http://www.kuramina.okayama-c.ed.jp/



同校近くにある観光地、美観地区

Outline

2007年に多様な大学入試に対応できる進学重視型の単位制へ移行。同年に文部科学省高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究実施校の指定を受け、学校設定科目「キャリアI・II」を創設(IIは選択科目／Iの調査、研究内容をさらに深める活動を行う)。06～08年度に文部科学省スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール、10～11年度に岡山県教育委員会研究指定教科指導パワーアップ事業＜国語＞の指定校。

図2 地域をプロデュースできる人材育成事業の活動概要(2013年度)

段階	1年次	2年次	3年次
ねらい	フィールドワークを通じた地域理解と「学びの志」育成	理解や連携を基盤とした地域貢献と「学びの志」の昇華	倉敷の未来を考え、自分の将来を見据える
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●「マチ☆プロ」(6～11月) →文化祭展示、ポスターセッション、「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」応募 ●キャリア講演会「『未来』を知って自分の『進路』を考える」(10月) ●京都大学「学びのサポーター」出前授業(11月) ●「ラーニング・カフェ」町衆の方々と話そう!(12月) →インタビュー記事制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校設定科目「キャリアI」(年間) 事業所訪問、課題研究「倉敷数学」 ●京都大学・大阪大学バスツアー(8月) ●地域研究に基づく演劇創作 →文化祭で発表(9月) ●社会人講演会(9・10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化祭ディベート大会(9月) ※決勝の論題を倉敷の課題から設定

図1 地域をプロデュースできる人材育成事業イメージ

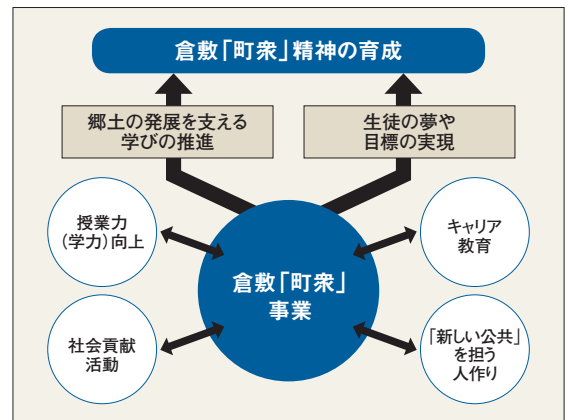


図3 「キャリアI」の年間の流れ

内容	教育入門の例(※)
4月	オリエンテーション 大学での学問
5月	大学講義入門(同校教員による)
6月	職場訪問
7月	事前学習
9月	大学教員講義
10月	社会人による講義
11月	事前学習
12月	ガイダンス
1月	テーマを決めて研究
2月	発表

※教育のほか、法律、経済、人文・国際、芸術、社会福祉、理学、工学、医療・保健、環境の10分野がある

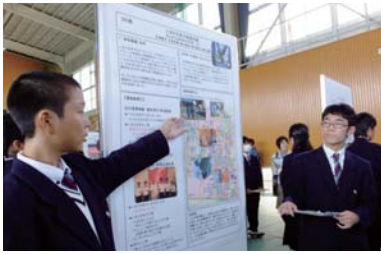
せなら普通科ならではの取り組みにしたい。そこで考えたのが、自らの町を自ら構想しようとする町衆連の自助・共助の精神を学ぶことにより、良き市民の育成を目指す3年間のキャリア教育です。その核には、地域インタビュヤディベート・プレゼンなど、知的かつ能動的な活動をその核に据えよう、と考えました(山下校長)

3年間のストーリーのあるプログラムを目指して

そんな山下校長の課題意識から生まれたのが、今年度から始まった「地域をプロデュースできる人材育成事業」(以下、町衆事業)だ。従来から行われてきたキャリア教育を再構築し、地域とのかかわりにより倉敷の町衆精神を受け継ぐ「志」をもつ生徒の育成を目指している(図1・2)。

これまで同校のキャリア教育は2年次の「キャリアI」が中心で、1年次はLHRで職業調べや大学調べを行う程度だった。そこで今年度は、1年次に地域のフィールドワークを取り入れた新プログラムを導入することで充実を図った。また、2年次は「キャリアII」で7月に実施する近隣の事業所訪問に体験活動を導入(図3)。3年次は秋の文化祭で行ってきたディベート大会の論題を、地域の課題にした。どの学年にも、地域の視点を取り入れ、3年間のストーリーのあるプログラムへの再編が試みられている。町衆事業を担当する進路指導主事の山本達也先生はこう話す。

「目指しているのは高校卒業時点での結果だけでなく、卒業後も伸びる生徒を育てること。そのためには、長い人生を見通したうえで高校卒業時にあるべき姿のビジョンを描き、それに基づく入学時からの



11月に学年全体で実施したポスターセッション発表会。発表後、聞く側から甘口・辛口の両方のコメントをもらう



マチ☆プロでごみゼロを目指した班は、フィールドワークとして早朝の倉敷美観地区で清掃を体験

ストーリー作りをすることが必要です」

新たな活動には費用もかかる。岡山県にはより特色ある取り組みを行う学校に集中的に予算を配分する制度があるが、同校は校長による事業プレゼンテーションによって最大200万円の助成を受けられる「プレゼン枠」に挑戦。全県で4校のうちの一校に採択された。得た予算は全国各地のキャリア教育や授業改革の先進校訪問、講演会や教員研修の講師招聘等に役立てられている。

「地域まるごと学校」を 合い言葉に

同校が特に力を入れた、1年次の新たな取り組みにクロスアップしてみよう。今年度、1年次生が春から秋にかけて取り組んだのが、町衆精神に学ぶプロジェクト学習、略して「マチ☆プロ」。地域の課題に対し、フィールドワークを行って解決策を考えるものだ。プログラムの企画・実践は1年次主任の作野真二先生が中心となり、学年団で進められた。

倉敷の経済、町並み、偉人、生物など、関心別に4〜5人ずつの班を編成。各班が「商店街改造計画」「町家の利活用」などのテーマを設定し、インターネットや書籍で現状把握や課題の理解を深めるとともに、夏休みには市役所や商工会議所、観光施設、特産品農家などを訪ね、インタビュ―や実験を行うフィールドワークを実施(図4)。そうして得た知識や体験をもと

に、課題解決の提言をまとめた。

図4 「マチ☆プロ」テーマの例

倉敷の経済
●商店街改造計画 ●学生服が創り出す未来
倉敷の町並み
●美観地区を走ろう Let's running Bikan area! ●打ち水で風情のある倉敷
倉敷の地理
●倉敷市CO ₂ 削減計画 ●レンコン of 倉敷 連島レンコンも永遠に
倉敷の歴史・文学
●町家の利活用～古い町家を菓子店へ～ ●パワースポットで見る歴史の町倉敷
倉敷の偉人
●偉人から学ぶ未来の倉敷
倉敷の生物
●身近な川にサワガニを ●乙鳥ジャコってな～んじゃ?
倉敷の福祉
●倉敷の救急体制～救える命はここにある～ ●倉敷の子育て

授業力向上策との 相乗効果も

マチ☆プロ実施に踏み切ったのは、本事業が県のプレゼン枠に採択された今年度4月で、活動時間を正課として設定することが間に合わなかった。そのため、マチ☆プロの活動は数回のLHRのほかは、夏休みや放課後、授業の合間を使って進められた。

活動時間が限られるなか、各班のテーマ決めに「現代社会」の授業時間を使うなど、通常授業の影響もあった。また、自宅でもマチ☆プロへの作業が必要となるため、家庭学習の時間が削られることもあるという。

一方で、マチ☆プロと通常授業との相乗効果もつかえる。同校には07年に設置された授業力向上委員会があり、年2回、生徒への授業アンケートと、校内の教員間で授業を見合う公開授業を実施。これらを材料に、各授業の弱点をふまえた目標を定

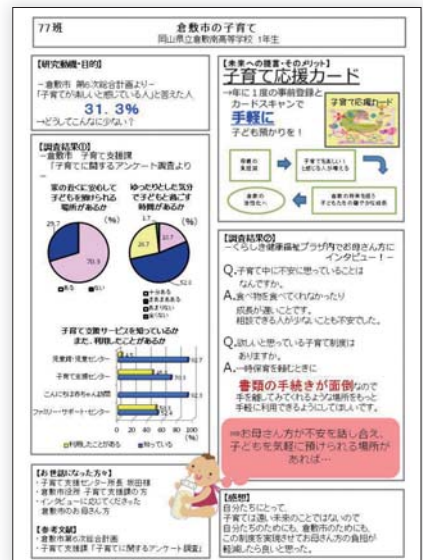
めて授業力向上に取り組み、半年後に変化をみている(図6)。わかる授業を行うだけでなく、授業を通じて意欲や思考力を育むことも目標の一つ。授業力向上委員会の絹田昌代先生は、「授業もキャリア教育のうち」との認識だ。

「普段の授業でもチームで思考し、相互発表するという工夫されたものが多く、生徒も問題発見、問題解決のアウトプット体験を積み重ねています(絹田先生) そうした授業改善の動きにマチ☆プロを絡め、国語、英語、数学、保健等の授業では、ポスターセッションの発表を意識して言語指導を導入。情報ではプレゼンのポスター作製技術指導などを行った。

自分の将来や 地域に対する意識に影響

限られた時間のなか、11月にはフィールドワークに協力してもらった地域の人々も招いて、学年全体でのポスターセッション発

図5 マチ☆プロで作成したポスターの例



Voice

マチ☆プロに取り組んだ生徒の感想

- マチ☆プロを通して、一番成長したと実感できたのは、客観的に見るということだ。(中略)自分はどう見られているのか、相手は自分とは別のことを考えているのだろうか意識することで生活習慣や学習面でも変化が出てきたと思う。これからは意識して生活したい。
- 知社会のことにも多少興味をもつようになった。マチ☆プロでは「たこしお焼きそば」をテーマに売り出し方を考えていたが、最近新聞などで地元の商品売り出している記事にも目を通すようになった。(中略)これからは社会のことにも興味をもって新聞など読んでいこうと思う。
- 今回のマチ☆プロで医療や保育に対する不安を抱えている人が多いことがわかり、そんな方たちの不安を解消できるような仕事に就きたいと思った。福祉の面で倉敷の住みやすさと発展に貢献できるような人間になり、私自身から発信していきたい。

表会を開催。地域の代表者による審査員、教員、生徒が投票を行って、優秀な班の表彰も行った。そこで入賞した女子3人の班は、「倉敷



授業力向上委員会
網田昌代先生



1年次主任
作野真二先生



キャリア教育支援室長
三島誠人先生



進路指導主事
山本達也先生



校長
山下陽子先生

市の子育て」をテーマに取り組んだ。始まりは「倉敷市で子育てが楽しいと感じている人がわずか3割」というデータを発見したこと。福祉施設で小さな子どもをもつ母親に、不安に思っていることや行政に求める支援策をインタビューしたところ、一時保育を頼む時の手続きの煩雑さが見えてきた。そこで、年に一度の登録でできる「子育て応援カード」を作り、カードをスキャンすることで煩雑な手続きなしに一時保育などのサービスを手軽に利用できるようにする制度の創設を提言した(図5)。

そのメンバーの一人は、「中学生までは自分のことで精いっぱいだったが、フィールドワークでいろんな立場の人の話を聞いたことになった」と、活動の意義を語った。このほか、実施後の生徒アンケートからは、倉敷の街を好きになったという感想や、進路の視野を広げたり、地域貢献への意識を高めたり、さまざまな影響がうかがえる(図6)。

また、こうした同校の活動は、地域も高く評価。ポスターセッションで審査員を務めた町衆連からは、「学校が街づくりにかわる非常に良いきっかけとなり、今後が楽しみ」卒業後、県外に出て帰ってこない若者が多いが、地域をよく知ることによって動きは変わってくるかもしれないなど、歓迎する声があがっている。

提言は岡山県が開催する「岡山まちの夢学生アイデアコンテスト」に応募。一次審査を通過した班は、2月の公開プレゼンテーションに参加する予定だ。

培われた意欲や人間関係を 生かして次の活動へ

「マチ☆プロが単発のイベントになつてはいけない。フィールドワークでできた地域との関係や経験を次の活動や来年度の『キャリア』にうまく接続させ、職業や学問の理解へとつなげていきたい」

キャリア教育支援室長の三島誠人先生がそう話すように、マチ☆プロ実施後も関連する活動が行われた。10月、香川大学アロミッションセンター准教授の山崎裕正氏によるキャリア講演会を実施。社会環境の現状の話から各自の進路を考え、マチ☆プロの活動を振り返ってその意義を確認する機会とした。11月には京都大学の院生による出前授業を実施。マチ☆プロで生徒が作成したポスターを学術的な見地から評価してもらい、データ分析の手法を学んだ。

さらに12月には、フィールドワークで関係ができた町衆5人を同校に招き、生徒約

図6A 授業アンケート結果の例

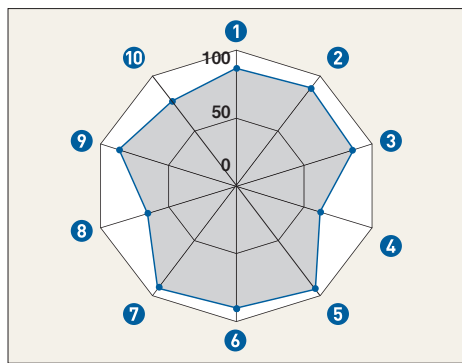


図6B 授業アンケート項目

	番号	普通教科	実技教科
生徒が自己評価している項目	1	予習をして授業に臨んでいる(意欲)	授業中、教師の問いに対して十分に思考し、問題解決しようとしている(思考力)
	2	授業中、教師の問いに対して十分に思考し、問題解決しようとしている(思考力)	授業中、実技・実習に自主的、主体的に取り組んでいる(意欲)
	3	授業の内容は、おおむね理解できている(授業力)	授業中、実習の内容は、おおむね理解でき活動できている(授業力)
	4	計画的に定期考査の学習ができており、学力がついた(定着)	学習内容を生活に生かしたり、将来のために役立てたりしようとしている(定着)
生徒が教師を評価している項目	5	1時間ごとの目標やポイントが明確である(授業力)	1時間ごとの目標やポイントが明確である(授業力)
	6	学習(予習)プリントや小テスト、授業中の話題など学習意欲をもたらす工夫がある(意欲)	一方的な説明ばかりではなく、思考が深まる問いがあり、考える時間がある(思考力)
	7	一方的な説明や板書を写すばかりではなく、思考が深まる問いがあり、考える時間がある(思考力)	生徒一人ひとりのつまずきや成果に気づき、対応しながら授業を進めている(授業力)
	8	生徒一人ひとりのつまずきや成果に気づき、対応しながら授業を進めている(授業力)	安全面や活動しやすい環境に配慮されていると感じる(授業力)
	9	前の授業の復習、テスト直し、小テスト等、学習内容の定着を図る工夫がある(定着)	テストや作品・活動の評価方法が明解で、目標としてとらえやすい(意欲)
	10	予定や進度を示してくれるため、予習・課題・定期考査の学習が計画的にできる(定着)	授業の内容を自分のこととしてとらえ、生活を豊かにするきっかけになっている(定着)

20人と話す「ラーニング・カフェ」を開催した。人生の先輩として進路選択の経験や、高校時代にしておきたいことなどをインタビュー。その内容を記事にまとめ、次年度の「キャリア」で使う「キャリアノート」に掲載し、学年全員で共有する予定だ。

今年度始まったばかりの町衆事業は、いまだ発展途上の段階といえる。「来年度は、先生方の反省や意見をうかがいながら、うまくカリキュラムに落とし込んでいきたい」と三島先生。今年度を踏まえてプログラムのブラッシュアップを図っていく考えだ。「こうした活動をどう進路に結び付けていくかが今後の課題」と山本先生。その成否がみえるのはもう少し先だ。

山下校長は、町衆事業に取り組み始めて、「誰かの役に立ちたい」という思いが生徒たちを動かしていることに気づいたという。

「今の子どもたちはガッツに欠けるなどと批判されますが、『他人を思いやる細やかさ』や『現状をよりよく暮らす工夫』など良い面も多い。われわれが意識を変えて子どもたちに寄り添うべきです。勉強して良い大学に行けば良い暮らしが保証された時代と違い、現代の普通科の課題は学びのモチベーションのみにくさ。彼らの良い面を伸ばす町衆事業で、誰かの役に立ちたいという思いが醸成され、『学びの志』になることを期待します」(山下校長)

学びの志を胸に灯した同校生徒の今後を楽しみにしたい。